

《履修上の留意事項》全体を通じて座学と体験によって理解できるように構成しているため、全回受講が望ましい。やむを得ず欠席する場合は、配布資料を入手してその回の内容を学び、課題を作成した上で次回講義に臨むこと。

《担当者名》宮崎 友香（非）

【概要】

カウンセリングの基本的な理論、方法、実践を理解し、カウンセラーのクライアント理解の仕方や援助方法を学び、他職種の心理的援助との異同を整理する。コミュニケーションを主体とした援助であるため、必要な知識のみならず、症例検討、DVD視聴、ロールプレイ等、講義内外の体験的な課題を通じて、知識と体験が繋がったより身につく講義を目指す。

【学修目標】

カウンセリングの定義、学派による視点の違い、展開の仕方など、カウンセリングの基礎を学ぶ。
 心理臨床家が行うカウンセリングを理解する。
 看護・福祉の仕事に取り入れられるカウンセリングの視点や姿勢、方法を学ぶ。
 カウンセリングにおいて、クライアントの権利・利益を守るために必要なことを理解する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	カウンセリングとは	臨床心理学とその仕事を理解し、その中でのカウンセリングの位置づけや定義を学ぶ。	宮崎
2	カウンセリングの学派とは	カウンセリングの主要4学派（精神分析、認知行動療法、クライアント中心療法、家族療法）について理解し、その視点の違いを学ぶ。	宮崎
3	カウンセリングの学派とは	症例を通じて、主要4学派の視点の違いをさらに深く、具体的に理解する。	宮崎
4	現象学的理論と人間性心理学	カウンセリングの土台となるクライアント中心療法について理解を深めるために、その基礎理論である現象学的理論と人間性心理学を2回に分けて学ぶ。	宮崎
5	現象学的理論と人間性心理学	カウンセリングの土台となるクライアント中心療法について理解を深めるために、その基礎理論である現象学的理論と人間性心理学を2回に分けて学ぶ。	宮崎
6	傾聴・共感を学ぶ	クライアント中心療法の実践として、傾聴・共感とは何か、その方法について座学で理解する。	宮崎
7	傾聴・共感を学ぶ	傾聴・共感を体験し、クライアント中心療法の実践を学ぶ。	宮崎
8	傾聴・共感を学ぶ	傾聴・共感を体験し、クライアント中心療法の実践を学ぶ。	宮崎
9	カウンセリングにおける関係作りとクライアントの権利・利益	カウンセリングの実際を学ぶ前提として、クライアント-カウンセラー関係やクライアントの権利・利益といった、倫理的かつ効果促進的な事項についておさえる。	宮崎
10	医療現場でのカウンセリングの実際	精神神経科・心療内科におけるカウンセリングの実際について学ぶ。	宮崎
11	医療現場でのカウンセリングの実際	身体科、特に緩和ケアにおけるカウンセリングの実際について学ぶ。	宮崎
12	医療現場でのカウンセリングの実際	医療現場において、心理臨床家が行うカウンセリングと他職種が行う傾聴・共感の異同について理解を深める。	宮崎
13	看護・福祉の仕事に活かすカウンセリング：認知行動療法	認知行動療法について具体例を交えて理解し、日常の看護・福祉業務に活かせる認知行動療法の視点について2回に分けて学ぶ。	宮崎

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
14	看護・福祉の仕事に活かすカウンセリング：認知行動療法	認知行動療法について具体例を交えて理解し、日常の看護・福祉業務に活かせる認知行動療法の視点について2回に分けて学ぶ。	宮崎
15	まとめとレポート課題について	講義全体を振り返り、知識を整理する。 最後に、レポート課題を提示する。	宮崎

【授業実施形態】

遠隔授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

レポート（40%）、講義内外課題（40%）、講義やディスカッションへの参加・態度（20%）

【教科書】

使用しない。

【参考書】

講義時に適宜紹介する。

【備考】

配布資料にしたがって講義を進める。講義内外で課題を提示し、知識や体験の定着と深化を図る。やむを得ず欠席する際には、配布資料を入手して、期限までに課題を提出すること。

【学修の準備】

講義終了後に、配布資料を復習した上で、次の講義に臨むこと。